

⑤研究指導・研修等 Area26, 27

松山市考古館
太陽の船復元研究所
日本芸術院
宮内庁書陵部
出光美術館
浦添市美術館
智美術館
鹿児島県歴史資料センター

東京大学 経済学部資料室
(財) アンパンマンミュージアム振興財団
国立国会図書館
福井県立恐竜博物館
君津市立久留里城址資料館
秋田県教育庁
和歌山県立近代美術館

保存担当学芸員研修 (⑤保05-10-5/5)

(1) 保存担当学芸員研修

保存担当学芸員研修 日程：2010（平成22）年7月12日（月）～23日（金）、参加者数：33名
近年、各地方において博物館・美術館等の数が増加し、施設が近代化されるとともに、資料の保存への関心が高くなってきている。しかしながら、保存科学の知識を習得しようとしても適切な学習の場や教材がないのが現状である。そこで本研究所では、資料の保存に携わる学芸員がその職務に必要な知識と技術を持てるよう研修を行おうとするものである。この趣旨のもと、第27回保存担当学芸員研修を開催した。

7月12日（月）

石崎武志「保存科学 総論」
佐野千絵「保存環境 各論 一文化財の材質・構造一」
朝賀浩（文化庁）「保存環境 各論 一文化財公開施設の設計一」
木川りか「生物被害 概論」

7月13日（火）

犬塚将英・吉田直人「保存環境各論・実習 一温湿度一」
佐野千絵「保存環境 各論 一室内汚染一」
木川りか「生物被害 各論 一文化財害虫一」
小峰幸夫（文化財虫害研究所）・木川りか「生物被害 実習 一文化財害虫同定一」

7月14日（水）

木川りか「生物被害 各論 一カビ一」
山本記子（保存修復支援技術者 絵画・書跡）・木川りか「生物被害〈実習〉一カビの除去一」
山本記子（保存修復支援技術者 絵画・書跡）「劣化と保存 各論 一日本画一」
三浦定俊「博物館の設備 一防災・防犯一」
木川りか「生物被害 実習 一トラップデータ解析一」

7月15日（木）

吉田直人「保存環境 各論 一光と劣化・照度基準一」
吉田直人・犬塚将英「保存環境 実習 一室内汚染の測定法と環境調査一」
神庭信幸（東京国立博物館）「東京国立博物館における講義と見学」

7月16日（金）

山口孝子（東京都写真美術館）「劣化と保存 各論 一写真一」
三浦定俊「調査手法 各論 一構造調査一」
ケーススタディテーマ打ち合わせ

7月20日（火）

犬塚将英「温湿度実習解説」

土屋裕子（東京国立博物館）「劣化と保存 各論 一修復材料一」

加藤雅人「劣化と保存 各論 一紙一」

早川泰弘「保存環境 各論 一大気汚染の影響一」

早川泰弘「調査手法 各論 一材質調査（無機物）一」

7月21日（水）

「環境調査実習 一ケーススタディー」（於：袖ヶ浦市郷土博物館）

7月22日（木）

木島隆康（東京藝術大学教授）「劣化と保存 各論 一油彩画一」

吉田直人「調査手法 各論 一材質調査（有機物）一」

高妻洋成（奈良文化財研究所）「劣化と保存 各論 一考古資料一」

石崎武志・佐野千絵・木川りか・吉田直人・犬塚将英「ケーススタディ報告」

7月23日（金）

北野信彦「劣化と保存 各論 一漆工品一」

石崎武志「劣化と保存 各論 一屋外の文化財一」

研修参加者名：阿部能久、石崎尚、稲葉理恵、井野功一、大道和人、大湾ゆかり、河上健二、工藤茂博、来見田博基、小井川理、小池浩平、木暮和代、坂本亮太、重松知美、篠崎陽子、新藤淳、吹田直子、関裕典、蔦村和雄、釣井龍秀、新名一仁、畑智子、藤崎温美、増山真一郎、松沢寿重、松本直子、豆谷浩之、溝田直己、宮尾素子、武藤美紀、湯田祥子、吉田恵理、増記隆介

所属：大田原市那須与一伝承館、目黒区美術館、袖ヶ浦市郷土博物館、茨城県近代美術館、滋賀県立安土城考古博物館、沖縄県公文書館、国立国会図書館、姫路市立城郭研究室、鳥取県立博物館、神奈川県立歴史博物館、群馬県教育委員会、市川市東山魁夷記念館、和歌山県立博物館、北九州市立美術館、財団法人東洋文庫、国立西洋美術館、京都府立丹後郷土資料館、長崎歴史文化博物館、呉市海事歴史科学館、真言宗智山派定福寺、みやざき歴史文化館、京都文化博物館、埼玉県立歴史と民俗の博物館、豊橋市美術博物館、新潟市美術館、元離宮二条城事務所、大阪歴史博物館、愛媛県立道後公園湯築城資料館、(財)林原美術館、松本市美術館、若松城天守閣郷土博物館、静岡市文化振興財団、文化庁文化財部美術学芸課

(2) 博物館・美術館等保存担当学芸員研修フォローアップ研修

日程：2010年6月21日（月）、会場：東京文化財研究所、参加者：97名

1981（昭和56）年より毎年、当研究所で開催している博物館・美術館等保存担当学芸員研修の修了者数は600人を超えた。修了生の尽力によって、収蔵・展示環境は大きく改善し、またそのための知識も広く認識されるに至った。しかし、この間にも、科学の進歩とともに、館内環境改善のための技術は発展し続けている。このような時代の進展に伴い、従来とは異なる知識が学芸員に要求されている。本研修では、保存担当学芸員研修終了者を対象に、その職務に必要な最新の知識を常に持つことを目的に、再研修を行おうとするものである。

プログラム・講師

吉田直人「照明用光源の今後一白熱灯とLEDの動向一」

西田尚子（根津美術館副館長）「新しい照明を完成させるまで一照明家との共同作業」

間瀬創「文化財公開施設における微生物調査」

佐野千絵「木材等試験法の提案一桐箱、床材等の有機酸放散能一」

(3) 資料保存地域研修

博物館・美術館などの文化財公開施設における資料保存は、保存を担当する学芸員の努力によっていることはもちろんであるが、学芸員以外の館長、事務官や警備員、監視員、空調機器の管理・保守作業員など、博物館の様々な業務に携わる多くの人々の理解がなければ、円滑に進まない。本研修は文化財保護に関する

⑤研究指導・研修等 Area27

知識を、文化財公開施設に勤務するできるだけ多くの職員に短い日数で学んでもらうため、各地の博物館協議会などの協力を得て1998（平成10）年度より開催するものである。

〔第15回〕 日程：2010（平成22）年12月13日（月）、会場：高知県立歴史民俗資料館

共催：高知県教育委員会、参加者：76名

プログラム・講師

朝賀浩（文化庁）「展覧会に伴う借用品の管理について」

三浦定俊（公益財団法人文化財虫害研究所理事長）「文化財の保存環境と生物被害防止法研究の歴史」

佐野千絵「新しい生物被害防除法—IPMの考え方と実際」

岡本桂典（高知県立歴史民俗資料館学芸課長）「県立歴史博物館における生物被害対策」

(4) 博物館資料保存論対策講座

2011（平成23）年3月8日（火）～3月10日（木）、会場：東京文化財研究所、参加者：81名

2009（平成21）年4月30日に公布された「博物館法施行規則の一部を改正する省令」により、学芸員養成課程において、自然科学的見地に基づいた資料保存や展示環境に関する内容を扱う科目として「博物館資料保存論」（2単位）が新設され、平成24年度より必修となることが決定した。しかし、同課程を持つ大学や短大は300を超える一方、この科目に即応出来るだけの専門性を有する人材は限られているのが現状で、そのため、専門外の教員が担当することになり、講義の構成や内容づくりに戸惑うケースが続出することが予想される。本講座は、このような状況に対応するため、同科目を担当することが決定した教員を対象に、資料保存に関連する講義を行うことにより、必須となる内容についての情報を提供し、開講に向けた準備に役立てることを目的とするものである。

プログラム・講師

3月8日（火）

石崎武志「資料保存総論」

佐野千絵「文化財の材料と構造」

犬塚将英「室内保存環境（温湿度）」

呂俊民「空調のしくみ」

石崎武志「屋外文化財の保存環境」

3月9日（水）

木川りか「害虫防止」

木川りか「カビ防止」

吉田直人「室内保存環境（照明）」

成瀬正和（宮内庁正倉院事務所保存課長）「伝統的保存方法」

早川泰弘「大気汚染の影響」

佐野千絵「室内保存環境（空気汚染）」

3月10日（木）

佐野千絵「防災・防犯」

犬塚将英「梱包・輸送」

早川泰弘「科学調査（材料）」

犬塚将英「科学調査（構造）」